

「共通事項」を考える（5）（中学校美術）

～ 第1学年 ～

今回の改訂で新設された「共通事項」について考えていきます。

まず、「共通事項」について、再確認しましょう。
学習指導要領解説には、次のように書かれています。

表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を〔共通事項〕として示す。〔共通事項〕は、「A表現」及び「B鑑賞」の学習を通して指導し、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力が十分育成されるようにする。

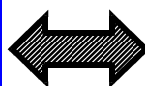
（中学校学習指導要領解説美術編 第1章総説 3 美術科改定の要点 (2) 内容の改善 ウ〔共通事項〕の新設）

つまり、「共通事項」とは

「表現及び鑑賞の活動で共通に必要な資質や能力」

であり、具体的には次の2つの能力となります。これらは相互に関連し合っています。

（ア）形や色彩、材料、光などの性質や、それがもたらす感情を理解すること。



（イ）形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

中学校学習指導要領解説には、次のように書かれています。（要約）

- 〔共通事項〕は、「A表現」及び「B鑑賞」の学習において、共通に必要な資質や能力であり、今回の改訂で新たに加えたものである。
- 〔共通事項〕の「共通」とは、「A表現」と「B鑑賞」の2領域及びその項目や事項の全てに共通するという意味である。同時に「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」に共通して働くという意味である。
- 〔共通事項〕はそれのみを取り上げて題材にするのではなく、「A表現」及び「B鑑賞」のそれぞれの学習を通して指導するものである。
- 〔共通事項〕の視点から発想や構想を促したり、生じたイメージを大切に鑑賞したりすることにより、感性や美術の創造活動の基礎的な能力が一層豊かに育成されていくことになる。
- ひとつの題材の中で同じ〔共通事項〕を基にして、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情などに着目して鑑賞活動を行い、さらに、発想や構想をする表現活動を行うなど、〔共通事項〕を柱に表現と鑑賞の活動を関連させることにより、表現や鑑賞の能力は効果的に育成される。

共通事項

学 年	（ア）	（イ）
全学年	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

第1学年の〔共通事項〕の捉え方及び計画への位置付け方

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
 - イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

1 次の事項を指導するため〔共通事項〕を各活動に適切に位置付けましょう。

「A表現」では

- 対象を見つめて感じ取り発想や構想をする能力
- 身近な他者の共感が得られるように伝えたり使ったりするものなどを発想や構想をする能力
- 自分が表したい感じを意識しながら表現する技能

「B鑑賞」では

- 作品などの造形的なよさや美しさなどを感じ取り味わう能力

2 具体例

(1) 「A表現」(1)では

- 主題を生み出す場面で、対象を見つめ感じ取ったり考えたりするときに、形や色彩などに着目したり全体的なイメージをとらえたりする。
- 構想する場面で、自分が表現しようと考えていることを具体的にアイデアスケッチなどで表すときに、形や色彩、材料などの表現効果を意識して表現を考える。

(2) 「A表現」(2)では

- 自分の身边を美しく構成や装飾をしたり身近な他者に気持ちや情報を伝えたりするために発想や構想をする場面で、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情などを意識して考える。
- 使用する者の気持ちなどを考えて発想や構想をする場面で、形や色彩、材料などに注目させ、意図に応じて効果的に生かす。

(3) 「A表現」(3)では

- 創造的な技能を働かせる場面で、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を意識し、常に自分の表したい感じをイメージしながら表現していく。

(4) 「B鑑賞」では

- 作品などに対する思いや考えを話し合い、対象の見方や感じ方を広げる場面で、漠然と作品を見るのではなく、〔共通事項〕の視点から鑑賞することで、作品を構成している造形の要素から形や色彩などから生じる感情や、特徴からとらえたイメージなどを基に話したり他の生徒の意見を聞いたりする。



今回から、中学校の「共通事項」について考えています。
次回は、第2学年及び第3学年の共通事項についててみます。

11月8日（金）頃アップの予定です。